

輸送経済

THE YUSO-KEIZAI

第2844号 昭和24年4月23日 (第三種郵便物認可)

5/5

平成21年
(2009)
(火曜日)
週刊

主要3事業で拡販

センコー M&A含め193億円増収へ

センコー(本社・大阪市、福田泰久社長)は、既存物量減少への対策として、流通ロジスティクス、住宅物流、石化樹脂物流の主要3事業などで拡販を推進。M&Aの効果を含め今期百九十三億円の増収を目指す。各事業の国際化対応、貿易事業拡大にも力を入れる。(水谷 周平)



福田 泰久社長

全事業あわせた新規顧客獲得による拡販の前期実績は百七十七億円。今期は二百三十二億円を目指す。

内訳は、流通ロジスティクス六十九億円、住宅物流五十四億円、石化樹脂物流三十九億円、商事、

こうした拡販での売上高は前年比九・一割増の増収を図る。

増加と二百十四億円のM&A(企業合併と買収)効果で、既存物量減少の影響額二百三十九億円を相殺。トータルで百九十三億円(前期比九・一割増)の増収を図る。

物流C、倉庫は200万㎡目指す

各事業の国際化対応や貿易事業の推進拡大にも注力する。国際化対応については、前期六十億円だった売上高を「今期は

む。商社とタイアップで輸出入貨物の取り扱いも拡大する。

新規のM&Aについては、「商事、海外関係で進めている。物流子会社や物流会社の案件は沢山来ており、相乗効果が見込める場合はM&Aを行う」と(同)。

設備投資は、来期完成予定の着工計画を進めており、今後の物流センターや倉庫の拡大についても「総面積二百万平方メートルにもっていったらいい」と(同)としている。

また、収益力アップに向け、人件費見直しなどのコスト改善、本社組織の簡素化を進める。

支店レベルでもフロックごとに現場業務、固定管理業務の集約・統合を行う。

平成二十二年度を初年度とする三カ年の中期計画編成についても、策定に着手し、今期中間決算時に方針を明らかにする。

事業の生産性向上徹底的に